

2024 年 POTY 賞授賞者

(公社)日本分析化学会(JSAC)・液体クロマトグラフィー(LC)研究懇談会の POTY(Person Of The Year) 賞は、非研究面から LC 研究懇談会の運営に大きな貢献が有った人物に与えられる褒賞である¹⁾。

2024 年 POTY 賞受賞候補者の推薦に関する会告は、JSAC の機関誌「ぶんせき」誌 3 号 (2024、M3) と LC 研究懇談会のホームページに掲載され (推薦締め切り 8 月 31 日)、9 月 17 日に選考委員会が Microsoft Teams により開催された。その結果、三上博久氏 (株式会社島津総合サービス) により推薦された榎本幹司氏 (栗田工業株式会社) が、9 名の参加選考委員 (欠席委員 1 名) により満場一致で受賞候補者として選考された。この選考結果は対面式で 9 月 20 日に開催された 2024 年度第 6 回拡大運営委員会で協議され、昨年度に続き榎本氏への連続授賞が正式に承認された。授賞題目は「インボイス制度導入に対する迅速且つスムーズな対応への貢献」である。以下、授賞対象となった榎本氏の業績を概説する。

榎本幹司氏は、LC 研究懇談会において長年運営委員を務めており、取り分け環境分野の専門家として活躍している。2023 年 10 月より始まったインボイス制度に対応する為、インボイス制度対応小委員長として基盤整備に取り組み、その運用の根幹となるインボイス制度準拠の領収書発行実務を行うと共に、業務の効率化及び発行手順の構築、確立に注力した。具体的には、毎月の例会を始め、講習会やテクノプラザ等の参加者に対する領収書の発行に当たって、参加者名簿より参加者の希望に応じた宛名 (社名、氏名等) を記した領収書の PDF ファイルを一括発行するエクセルシートを作成し、メールによる領収書の送付等の業務を担った。更に、領収書発行及び発送の効率化を模索し、領収書のダウンロードサイトの URL を記載したメールを参加者に送付する外部システムを採用する事により、発行手順の構築及び確立し、領収書関連業務の大幅な効率化を成し遂げた。

以上の様に榎本幹司氏は、インボイス制度導入に対する LC 研究懇談会の迅速且つスムーズな対応に多大な成果を挙げ、LC 研究懇談会の活動に多大な貢献を果たした。榎本氏のこの業績は、今後の LC 研究懇談会の発展にも大きく寄与するものであり、2024 年度 POTY 賞に相応しいものと評価された。

なお、榎本氏の業績に関する詳細は、LC 研究懇談会の電子ジャーナル「LC と LC/MS の知恵」第 9 号 (2024 年 12 月 15 日発行予定) に掲載し、受賞講演並びに表彰・副賞の授与は第 30 回 LC & LC/MS テクノプラザの初日 (2025 年 1 月 15 日、大田区産業プラザ PIO) に行う予定である。

1) 中村 洋、ぶんせき、2022、130-131.